

# 東奥日報

2025年(令和7年)7月15日(火曜日) (18)

## 八工大最先端システム導入

### ハ 戸 スポーツ、音楽研究へ活用

## 人の動きをデータ化して記録



見学会で披露された、画面上に人の動きを再現するモーションキャプチャシステム

八戸工業大学は、人の動きを記録する最先端の「モーションキャプチャシステム」を導入し、6月下旬から本格運用を始めた。工学部工学科システム情報工学科コース内のスタジオに設置し、スポーツサイエンス、ミュージックパフォーマンスサイエンスの分野などへ教育・研究の幅を広げる。

◇ (岡田圭逸)

システム情報工学科コースは従前から、コンピュータグラフィックス技術に関する教育・研究などを実施してきた。システム導入により、表情豊かなCGキャラクターの制作やアスリートの動作分析、伝統舞踊などのデータ保存・継承などへの活用が期待される。

モーションキャプチャ

は、関節などの動作対象部位にマーカーやセンサーを装着し、位置や動きを3次元で計測、データ化して記録する仕組み。八工大が採用したのは、複数のカメラで空間を作り、反射マーカーの位置をトラッキングする「光学式」のシステム。赤外線カメラ6台と着用するスーツ、センサー付きグローブ、マーカーなどを導入した。赤外光を反射しない材質のマットを敷いたスタジオで利用する。

6月26日に行われた見学会では、八戸市内の医療・福祉関係者らの前で、システム情報工学科コースの桶本まどか講師がシステムを操作。身体にマーカー50個を付けた人の動きを画面上に再現した。工学科学科長補佐の伊藤智也教授は「機材の設定など実践的に学ぶ機会を学生に提供できる」と強調した。

システムの活用や研究の相談などに関する問い合わせは八工大社会連携・研究推進部(電話0178-28005)へ。

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」